
glad and sadness～出会いは誘拐事件～

vaz

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

glad and sadness（出会いとは誘拐事件）

【Nコード】

N8482T

【作者名】

vaz

【あらすじ】

glad探偵団はここから始まった！
glad and sadness第3弾！

(前書き)

第3弾書きました！

3人の出会いの話……

今日もgood探偵団は、事務所（凧の家）で、話していた。
速斗が、思い出話をしだしたのだ。

「3人で探偵団作ったのって、あの誘拐事件がきっかけだよな？」

「そういえばそうだったね」

「懐かしいね」

＊

それは、高校に入学して間もないときだった。

この頃、連続に誘拐事件が続いていた。不思議なことに、毎日1人。どこを狙われるか分からない警察も混乱状態で、迷宮入りとされていた。

そして、その最近のHR……

「えー、皆も知っている通り、ここ最近このあたりで連続誘拐事件が発生している。被害者の安全も確保できていない状況なので、十分に気をつけるように」

先生がそう伝えた。

下校時間の時、蘭がこっちにやってきた。

「ねえ凧、送っていいとか？ 何だか物騒だし……」

「大丈夫だって」

「そう？ 凧はドジだから心配だなく。じゃあ、気をつけてね」

そう言って、蘭は帰っていった。正門で思いっきりこけたりもしていた。

（お前が1番のドジじゃねえか……）

そう思いつつ、凧も下校した。

その道中……

凧はいつもと変わらない道を普通に歩いていた。そしたら、すごく派手な車があった。

「すごいな……星マークがいっぱい書いてある……」

その車は、星マークがいっぱい付いていて、とても派手な車だった。

凧がそれに見入っていると、向こうから、1人の男性がぶつかってきた。

凧はそれの反動で、後ろに倒れてしまった。

「気をつけろ！」

男は舌打ちをしながら、すぐ横にあった建物へと入っていった。

「向こうからぶつかってきたじゃん……」

凧も嫌そうな顔をして、その建物の隣にあった自動販売機で、ジュースを買いおとした。

その時、さっきぶつかってきた男と同じ服を着た集団が、大きな箱を持って、さっきの派手な車に乗せた。

（へー、こいつらの車だったんだ）

そう思いながら通り過ぎようとしたとき、凧は信じられないものを見てしまった。

なんと、箱の中には人間が入っていたのだ。

そこから、こいつらは誘拐事件の犯人だとすぐに分かった。

早速警察に連絡……

「おい」

「はい〜？」

しまった。連中の1人に見つかってしまった。そりゃあ、警戒するよね〜。だって携帯開いて1番初めに「1」を押そうとしてるんだもん。

「何してる？」

「友達の携帯に……」

「友達の携帯番号は「1」から始まるのか？ 変わった番号だな」
どうやってこの状況を切り抜けよう……

「あのですね。実は天気予報を聞こうと思って……」

「……そうか」

案外すんなりと信じた。

「じゃあ、今聞け。俺が目の前にいる間に」

「はい」

冗談じゃねえぞ！ 天気予報の電話めっちゃ高いんだからな！

捕まったら金返せよ！

そして風は知りたくもない明日の天気を聞いた。

「明日は晴れですって」

「そんなこと聞いてない」

そう言って、そいつは車の助手席に乗った。

その後も普通に帰ろうとしたのだが……

（こいつら……ずっと私について来やがる……）

こんな状況だと警察に連絡が出来ない。近所のおばちゃんがストーカーと勘違いでもいいから、早く警察に連絡してくれ！

（どうする……これはかなりまずいんじゃないか？ だって、もう1秒もあつたら犯人に触れる距離だぞ？ これで連絡できないとなると……）

そう考えながら、風は家に入った。しかもすぐに2階にダッシュ！ ……しても、あいつらはこっちを見ている。

風は自分のパソコンを開いて、蘭にメールを送った。

（こうなったら、私が解決してやる！）

そう思った。

蘭へのメールの内容は……

『連続誘拐の被害場所を印をつけた地図で、くれないか？』
そういう内容だった。何か思い当たることがあるようだ。

しばらくすると、蘭からファックスで届けられ、被害場所が分かった。

（やっぱりだ。こいつらの犯行場は、あの条件が一緒だ。それに、犯行現場を起こった順に線で結ぶと……）

これは、星型の半分だ。これなら次の犯行現場も大体分かる。この事件は、1日1回で行われているから……明日には待ち伏せができるだろう。

気づいたら、もう連中はいなかった。これで安心して、生活できるぜ！

と、思いながら、ニュースを見た。

『今、速報が入って参りました。先日から続いている誘拐事件ですが、いつもと違って、今日は2件の場所が被害にあっています。警視庁によると、今日もこのまま犯行が続くかも知れないと言っていました。警察は、一刻も早く犯人を捕まえるべく、今日もこの町を調査する見込みです』

それを聞いて、凧は凄く慌てた。もし、このまま今日も犯行が行われるとすると、次のターゲットは……

「蘭の家じゃん……」

凧はすぐに支度をした。ニュースを見ながら……

『続いてのニュースです。この町のスター殺人から、早くも30年が経ちました』

今は関係ないじゃないか！ そう思いながら、凧は飛び出していった。

凧は自転車を猛スピードでこいで、蘭の家を目指した。
その道中……

「お！ 凧じゃん！」

うっとおしいな。こんな時に声をかけるんじゃないやねえ！

「ああ、速斗か。どうしたんだ？」

「お前こそどうしたんだよ？ そんなに急いで」

「まあ……」

その時、凧はいいことをひらめいた。

「なあ、お前今暇か？　ってか忙しくてもいう事を聞け！」

「何なんだよいきなり……まあ、暇だけど」

「蘭の家の前で待ち伏せをしてくれないか？」

「誰をだよ？」

「誘拐事件の犯人。もしかしたら間に合わないかもしれないから、星マークがいっぱい付いた車を見つけたら、ずっと追いかけてくれ」

「……分かった。じゃあ、行ってくる！」

そう言って、速斗は、凄いスピードで蘭の家を目指した。

「さあ、私も行くか」

凧もどこかを目指して走っていった……

速斗は、蘭の家に早くもついたものの、着いた途端に、星マークがいっぱいついた車が発射した。凧に言われた通り、しっかりと追いかけていく。

その上、さりげないところで、凧の作戦があった。蘭の家から次のターゲットまでは、森のようなところを通るため、人が少なく、下っていくので、遠慮なくスピードが出せるのだ。

(……なるほど、そういうことか。やっぱり賢いなあいつ)

そう思いながら速斗はずっとその車を追いかけた。

そして、その車は目的地に着いた。だが……

「あんたらの負けだよ」

そこには凧がいた。

「お前は今日の……」

「警察も呼んだ。もう逃げられないよ」

凧はニッと笑った。連中も凄くあせった表情だった。

「このまま終わるかよ！」

1人の男が走っていった。

「速斗！」

「OK！」

速斗が、全速力で走って、犯人を追った。凄く運動神経のいい速斗は、あっさりその男を捕まえてしまった。

「くそっ！」

「意外と足遅いね」

その男が捕まったとき、リーダーがその場に座り込んだ。

「……何故ここがターゲットだと分かった？」

「あんたら……スター殺人で親をなくしたんだろう？ それで、復讐のために動いてるなら、ここがターゲットだって分かった」

「……今のあいづらは、この土地を、俺たちの親を殺して奪い取った。それが許せなかったんだ！ 元々、俺たちの土地じゃないか！」

リーダーはそう言って、地面を思いっきり叩いた。風は、1つ疑問に思ったことがあった。

「……だったら、何で首謀者の子供、被害者の親じゃなくて、子供を狙ったんだ？」

「……あいづらにも教えてやりたかった。大切な人がいなくなる感覚を……」

それが、リーダーから聞いた最後の言葉だった……

そしてその後、警察は連中を逮捕した。

「凄いな！ 風！」

「はあ……」

「なあ、風……俺の夢が今叶いそうなんだ……」

「何だ？ いきなり……」

「俺と探偵団組もう！」

「は！？」

速斗がそう言ったとき、向こうから開放された蘭がやってきた。

「やったら？ 風」

「ん……まあ……よし！ 分かった！ やってやる！」

「やったー!」

「私もいいかな?」

そう言ったのは蘭だった。

「2人とも凄くかつこよかった! 私もやりたい!」

「おう! じゃあ、探偵団結成な!」

＊

戻って、g l a d探偵団事務所……

「あの事件から俺たちは始まったんだな……」

「そうだったね……」

これが、g l a d探偵団の始まりだった……

(後書き)

また、第4弾も書きたいと思っています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8482t/>

glad and sadness～出会いは誘拐事件～

2011年6月5日16時56分発行